

授業科目名： 国際政治理論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 秦野 貴光
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：国際政治理論の理解と応用 到達目標：国際政治学における様々な理論や方法を用いて、現実の国際政治問題を分析できるようになるとともに、自身の研究課題に含まれる理論的な課題や論点について考察できるようになる。			
授業の概要 現代国際政治を分析するために必要な理論や方法の基礎を基本文献の輪読と議論を通じて身につけることを目指す。			
授業計画 第1回：国際関係論と社会科学 第2回：古典的リアリズム 第3回：構造的リアリズム 第4回：リベラリズム 第5回：ネオリベラリズム 第6回：英国学派 第7回：マルクス主義 第8回：批判理論 第9回：コンストラクティヴィズム 第10回：フェミニズム 第11回：ポスト構造主義 第12回：ポスト・コロニアリズム 第13回：規範的国際政治理論 第14回：国際政治理論とグローバル化 第15回：まとめ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等			

International Relations Theories: Discipline and Diversity (Tim Dunne et al. 著、Oxford University Press, 2021年)

学生に対する評価

授業への参加度 (50%)、レポート (50%)

授業科目名： 国際安全保障理論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 秦野 貴光
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：国際安全保障理論の理解と応用 到達目標：国際安全保障論における様々な理論や方法を用いて、現実の国際安全保障問題を分析できるようになるとともに、自身の研究課題と国際安全保障の諸問題とのつながりや関連について考察できるようになる。			
授業の概要 国際安全保障の諸問題を分析するために必要な理論や方法の基礎を基本文献の輪読と議論を通じて身につけることを目指す。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：伝統的安全保障理論 第3回：批判的安全保障理論 第4回：人間の安全保障 第5回：エネルギー安全保障 第6回：食料安全保障 第7回：人の移動と安全保障 第8回：環境と安全保障 第9回：自然災害と安全保障 第10回：テロリズム 第11回：核抑止と核不拡散 第12回：サイバー戦争 第13回：ハイブリッド戦争 第14回：宇宙と安全保障 第15回：まとめ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等			

授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 授業への参加度（５０％）、レポート（５０％）

授業科目名： 紛争解決論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古澤 嘉朗
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：紛争解決の理論と政策			
到達目標：紛争解決論について体系的な理解を身に付ける。紛争を「解決」するという意味の多面性について考察できるようになる。			
授業の概要			
第一次世界大戦後に「戦争がなぜ起こるのか・いかに防げるのか」という問題意識のもと始まった国際関係論が、第二次世界大戦後に研究対象が経済・環境分野等へと広がりを見せる中、武力紛争という事象に特化し続けた学問が紛争解決論です。本講義では、紛争解決論を体系的に学び、紛争を「解決」するという意味の多面性について説明できるようになることを目指します。			
授業計画			
第1回： 紛争解決論の歴史			
第2回： 紛争・紛争解決の理論・概念			
第3回： 長期化する紛争（PSC）とE. アザル			
第4回： 武力紛争のデータとその傾向			
第5回： グローバリゼーションと武力紛争			
第6回： 移行期正義と和解			
第7回： 移行期正義の事例：北アイルランド紛争とその後			
第8回： 紛争解決とノンオフィシャル・ディプロマシー			
第9回： 市民社会による取り組み：北アイルランド・ルワンダ			
第10回： 紛争解決と紛争予防			
第11回： 紛争解決と国際社会：保護する責任（R2P）			
第12回： 紛争解決と国連平和維持活動（PKO）			
第13回： 武力紛争と文民の保護（POC）			
第14回： 地域機構とPKO			
第15回： 対テロ戦争と脱過激化の取り組み			
テキスト			

なし

参考書・参考資料等

- Oliver Ramsbotham, Tom Woodhouse, and Hugh Miall (2016) *Contemporary Conflict Resolution*. 4th edition. Polity Press.
- Jacob Bercovitch and Richard Jackson (2009) *Conflict Resolution in the Twenty-first Century*. The University of Michigan Press.
- Alex J. Bellamy and Paul D. Williams (2010) *Understanding Peacekeeping*. 2nd edition. Polity Press.
- 古澤嘉朗・田辺寿一郎編（2024）『国際紛争解決論』溪水社。
- 授業中に適宜資料も配布する。

学生に対する評価

授業貢献度（議論への貢献度、発言の回数）50%、期末レポート50%

授業科目名： 平和構築論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古澤 嘉朗
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：平和構築論争に関する考察 到達目標：平和構築に関する体系的な理解を身につけ、「平和」という言葉の多面性について考察・説明できるようになる。			
授業の概要 「平和構築」は国連事務総長報告書『平和への課題』（1992年）が契機となって国際社会に広まったが、平和構築に関する知見・経験が集積されるにともない、様々な課題が指摘されるようになった。本講義では、平和構築に関する議論を体系的に学び、「平和」という言葉の多面性について考察できるようになることを目指します。			
授業計画 第1回： 平和構築と『平和への課題』 第2回： 政策における「平和構築」の応用 第3回： 平和構築とリベラルピース 第4回： 平和構築と国家建設：選挙制度支援 第5回： 平和構築と国家建設：警察改革支援 第6回： 下（from below）からの平和構築 第7回： リベラルピースと「平和構築論争」（Peacebuilding Debate） 第8回： 平和構築と「混雑性」（hybridity） 第9回： 平和構築と「日常性」（everyday） 第10回： 平和構築における正義と平和のジレンマ 第11回： 平和構築の力学 第12回： 平和構築と未承認国家 第13回： 平和構築とディアスポラ 第14回： 平和構築と芸術 第15回： 平和構築と集合的記憶			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

- Roger MacGinty, ed. (2013) *Routledge Handbook of Peacebuilding*. Routledge.
- Michael Pugh, Neil Cooper, and Mandy Turner, eds. (2008) *Whose Peace? Critical Perspectives on the Political Economy of Peacebuilding*. Palgrave Macmillan.
- Oliver P. Richmond, ed. (2010) *Palgrave Advances in Peacebuilding*. Palgrave Macmillan.
- 古澤嘉朗・田辺寿一郎編（2024）『国際紛争解決論』溪水社。
- 授業中に適宜資料も配布する。

学生に対する評価

授業貢献度（議論への貢献度、発言の回数）50%、期末レポート50%

授業科目名： 国際協力論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉田 晴彦
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
国際協力に関する基礎知識と分析力、思考力を身につけること。			
授業の概要			
平和に資するための協力という視点から、国際政治、国際協力に関する基本的な知識と思考力、表現力を習得することを目的とする。			
授業計画			
第1回：イントロダクション 現代世界の現実			
第2回：国際協力とは何か			
第3回：国際協力はなぜ必要とされたのか			
第4回：国際協力の萌芽と国際関係：1960年代			
第5回：国際協力と国際対立：1970年代			
第6回：国際協力と相互依存：1980年代			
第7回：冷戦後の国際協力：1990年代			
第8回：21世紀の国際協力 MDGsの時代			
第9回：21世紀の国際協力 SDGsの現在			
第10回：国際協力演習 1 国際協力の現場とは			
第11回：国際協力演習 2 「開発」感の変容			
第12回：国際協力演習 3 グローバル・ジャスティスと国際協力			
第13回：国際協力演習 4 身近な環境と国際協力			
第14回：国際協力演習 5 受講生によるプレゼンテーション			
第15回：まとめ			
テキスト			
必要に応じて指示する			
参考書・参考資料等			
S. J. Tisch & M. B. Wallace, <i>Dilemmas of Development Assistance</i> , Westview.			
学生に対する評価			
講義におけるプレゼンテーション30%、ディスカッション内容50%、レポート20%を基本に採点を行う。			

授業科目名： 国際協力論Ⅱ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉田 晴彦
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
国際協力に関する基礎知識と分析力、思考力を身につけること。				
授業の概要				
平和に資するための協力という視点から、国際政治、国際協力に関する基本的な知識と思考力、表現力を習得することを目的とする。				
授業計画				
第1回：イントロダクション 協力で何をするのか				
第2回：国際協力という営為				
第3回：地球環境と国際協力				
第4回：開発と国際協力				
第5回：人権と国際協力				
第6回：平和と国際協力				
第7回：ODAとは何か				
第8回：ODAの現状				
第9回：ODA以外の国際協力				
第10回：NGOとは何か				
第11回：NGOの現状				
第12回：ビジネスと国際協力				
第13回：実務としての国際協力				
第14回：国際協力演習 受講生によるプレゼンテーション				
第15回：まとめ				
定期試験：実施しない				
テキスト				
必要に応じて指示する				
参考書・参考資料等				
S. J. Tisch & M. B. Wallace, <i>Dilemmas of Development Assistance</i> , Westview.				
学生に対する評価				
講義におけるプレゼンテーション30%、ディスカッション内容50%、レポート20%を基本に採点を行う。				

授業科目名： 日本政治外交論Ⅰ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 武田 悠
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会、高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 日本の政治・外交をテーマに、本テーマに関する背景知識や歴史的研究方法を身につけることを到達目標とする。				
授業の概要 日本の政治・外交に関する文献の輪読を行うと共に、現在の研究の最前線がどこにあるかを議論する。				
授業計画 第1回：はじめに—日本の政治・外交に関する研究状況 第2回：輪読—明治期の日本外交 第3回：輪読—日清・日露戦争 第4回：輪読—軍部 第5回：輪読—日中・日米戦争 第6回：輪読—敗戦から講和へ 第7回：輪読—高度成長 第8回：輪読—経済大国としての外交 第9回：輪読—冷戦終結から湾岸戦争へ 第10回：輪読—対テロ戦争から米中対立へ 第11回：輪読—近年の日本外交論 第12回：輪読—政治外交史研究の方法論 第13回：研究の最前線（1）戦前 第14回：研究の最前線（2）戦後 第15回：まとめ—全体の講評				
テキスト ヘンリー・ブレイディ、デヴィッド・コリアー編（泉川泰博、宮下明聡訳）『社会科学の方法論争 [原著第2版]』勁草書房、2014年				
参考書・参考資料等 各回のテーマに関する参考書をその前の回に提示する。				
学生に対する評価 各回の輪読、討論、報告への参加（50%）、および期末に提出する先行研究のレビューペーパー（50%）。				

授業科目名： 日本政治外交論Ⅱ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 武田 悠
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会、高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 日本の政治・外交をテーマに、本テーマに関する一次史料を読み解けるようになることを到達目標とする。				
授業の概要 日本の政治・外交に関する研究書を輪読すると共に、各研究書のテーマに関する一次史料を読み解き、引用の適切さ等についても分析を行う。				
授業計画 第1回：はじめにー日本の政治・外交に関する史料状況 第2回：輪読ー対米戦争 第3回：史料報告（1）政策決定過程 第4回：史料報告（2）日米交渉 第5回：輪読ー沖縄返還 第6回：史料報告（1）首相官邸 第7回：史料報告（2）外務省 第8回：輪読ー冷戦終結 第9回：史料報告（1）外国語史料 第10回：史料報告（2）邦語史料 第11回：史料の活用 第12回：先行研究と引用史料の分析（1）戦前 第13回：先行研究と引用史料の分析（2）戦後 第14回：先行研究と引用史料の分析（3）冷戦後 第15回：まとめー史料報告の講評				
テキスト 中村隆英、伊藤隆編『近代日本研究入門 増補版』東京大学出版会、2012年				
参考書・参考資料等 各回のテーマに関する参考書をその前の回に提示する。				
学生に対する評価 各回の輪読、討論、報告への参加（50%）、および期末に提出する小論文（50%）。				

授業科目名： 中国国際関係史Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 飯島 典子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：近代に於ける京劇と歌舞伎の交流 到達目標：20世紀以後、映画など新しい娯楽が台頭する中で、梅蘭芳を中心に京劇の刷新を図ったがどのように日本と交流したのか、の概要を説明できるようになる。			
授業の概要 京劇俳優梅蘭芳の生涯を通して日本との関係、歌舞伎との交流を考察する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：なぜ欧米から見て京劇と歌舞伎は混同されやすいのか 第3回：隋唐代に溯る中国音楽の日本への導入 第4回：京劇概論（1）歴史・衣装・所作 第5回：京劇概論（2）有名な演目について 第6回：梅蘭芳の京劇改革 第7回：梅蘭芳と日本（1）初回の日本公演とそれに至るまで 第8回：梅蘭芳と日本（2）女形の研究 第9回：梅蘭芳と日本（3）歌舞伎界との交流 第10回：歌舞伎「本朝廿四孝」と梅蘭芳 第11回：戦後の梅蘭芳 第12回：現代の京劇女形の挑戦 第13回：京劇とスーパー歌舞伎 第14回：世界の中の京劇 第15回：まとめ			
テキスト 適宜指示する			
参考書・参考資料等 適宜指示する			
学生に対する評価 平常点：質問への答え方にみる考察力（100%）			

授業科目名： 中国国際関係史Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 飯島 典子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 世界の華僑華人、そしてその主な故郷である華南社会の概要を理解する。			
授業の概要 華僑華人の歴史及び最新事情を紹介、考察する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：華南社会（1）自然環境と歴史 第3回：華南社会（2）なぜ「僑郷（華僑の故郷）」となったのか 第4回：華僑概論 第5回：広東華僑 第6回：福建華僑 第7回：江西華僑 第8回：一帯一路と華僑（1）東南アジアを中心に 第9回：一帯一路と華僑（2）メディアを通じた宣伝 第10回：韓国華僑 第11回：日本の華僑（1）その歴史と特色 第12回：日本の華僑（2）新華僑を中心に 第13回：中南米華僑 第14回：EUにおける華僑 第15回：まとめ			
テキスト 適宜指示する			
参考書・参考資料等 適宜指示する			
学生に対する評価 平常点：質問への答え方にみる考察力（100%）			

授業科目名： 東南アジア政治論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 板谷 大世
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：東南アジア諸国での民主化の分析 到達目標：東南アジア諸国での民主化の動向を、地域の現実と民主化理論の両面から考察できるようにする。			
授業の概要 東南アジア諸国が抱える政治的な課題、とりわけ民主化について多角的に考察し、東南アジア地域に共通する変化とそれぞれの国における固有の変化に関して理解を深める。			
授業計画 講義はゼミ形式による報告と討論を中心に進めます。以下の予定表では東南アジア諸国を幅広く取り上げているが、専門性がより求められる大学院の講義という性格上、受講者が決定した段階で考察対象国を調整する。 第1回：東南アジアにおける植民地支配 第2回：インドネシアの現代史（スカルノ時代からスハルト時代について） 第3回：インドネシアの現代史（スハルト時代以降について） 第4回：マレーシア、シンガポールの現代史（マラヤ連邦の独立とシンガポール共和国の独立について） 第5回：マレーシア、シンガポールの現代史（マレーシアの政治動向について） 第6回：マレーシア、シンガポールの現代史（シンガポールの政治動向について） 第7回：フィリピンの現代史（マルコス大統領の登場と退場について） 第8回：フィリピンの現代史（マルコス大統領以後の政治動向について） 第9回：タイの現代史（冷戦期の政治動向について） 第10回：タイの現代史（タクシン首相以後の政治動向について） 第11回：ビルマの現代史（国民民主連盟の誕生までの政治動向について） 第12回：ビルマの現代史（アウンサンスーチー国家最高顧問の誕生とその後の政治動向について） 第13回：ベトナム、カンボジアの現代史（第一次インドシナ戦争の終結までの政治動向について） 第14回：ベトナム、カンボジアの現代史（ベトナムのカンボジアからの撤退までの政治動向について） 第15回：ベトナム、カンボジアの現代史（冷戦後の政治動向について）			
テキスト			

なし
参考書・参考資料等 川中豪、川村晃一（編著）『教養の東南アジア現代史』ミネルヴァ書房、2020年 中村正志（編）『東南アジアの比較政治学』アジア経済研究所、2012年 山本信人（編）『東南アジア地域研究入門 3 政治』慶應義塾大学出版会、2017年 増原綾子（他）『はじめての東南アジア政治』有斐閣、2018年 その他の論文などは開講時に紹介します。 参考資料等は授業中に配布します。
学生に対する評価 授業での報告・ディスカッションなどの平常点(50%)と、レポート(50%)による。

授業科目名： 東南アジア政治論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 板谷 大世
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：東南アジア諸国での民主化の動向を、地域の現実と民主化理論の両面から考察できるようになる。 到達目標：東南アジア諸国が抱える政治的な課題、とりわけ民主化について多角的に考察し、東南アジア地域に共通する変化とそれぞれの国における固有の変化に関して理解を深める。			
授業の概要 東南アジア諸国での民主化の動向を、地域の現実と民主化理論の両面から考察できるようになる。			
授業計画 第1回：国民国家（国家から見た国民） 第2回：国民国家（国民から見た国家） 第3回：政治体制（権威主義体制について） 第4回：政治体制（自由民主主義体制について） 第5回：政党（政党の凝集性について） 第6回：政党（政党の規律について） 第7回：選挙（選挙制度について） 第8回：選挙（選挙制度と民主制について） 第9回：執政制度（執政制度について） 第10回：執政制度（執政制度と自由主義について） 第11回：司法制度（司法制度について） 第12回：司法制度（司法の政治介入について） 第13回：権威主義体制の崩壊 第14回：民主主義体制への移行 第15回：民主主義体制の安定			
テキスト なし			
参考書・参考資料等			

川中豪、川村晃一（編著）『教養の東南アジア現代史』ミネルヴァ書房、2020年
中村正志（編）『東南アジアの比較政治学』アジア経済研究所、2012年
山本信人（編）『東南アジア地域研究入門 3 政治』慶應義塾大学出版会、2017年
増原綾子（他）『はじめての東南アジア政治』有斐閣、2018年
その他の論文などは開講時に紹介します。
参考資料等は授業中に配布します。

学生に対する評価

授業での報告・ディスカッションなどの平常点(50%)と、レポート(50%)による。

授業科目名： ロシア国際関係史 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 斎藤 祥平
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：亡命ロシア史 到達目標：亡命ロシアの歴史的展開について理解を深めるとともに、文献の読解能力を高める。			
授業の概要 1920年代以降の亡命ロシアの歴史的展開に関する文献を読解し、亡命ロシア人とホスト国やソ連との関係について理解を深める。受講者はゼミ形式で行われる毎回の授業にて文献の内容について報告および議論を行う。			
授業計画 第1回： 導入 第2回：テキスト第1章の読解と解説 第3回：テキスト第1章についての学生の発表、教員からのフィードバック 第4回：テキスト第2章の読解と解説 第5回：テキスト第2章についての学生の発表、教員からのフィードバック 第6回：テキスト第3章の読解と解説 第7回：テキスト第3章についての学生の発表、教員からのフィードバック 第8回：これまでの振り返りと議論、中間報告 第9回：テキスト第4章の読解と解説 第10回：テキスト第4章についての学生の発表、教員からのフィードバック 第11回：テキスト第5章の読解と解説 第12回：テキスト第5章についての学生の発表、教員からのフィードバック 第13回：テキスト第6章の読解と解説 第14回：テキスト第6章についての学生の発表、教員からのフィードバック 第15回：まとめと最終報告			
テキスト Marc Raeff, Russia Abroad: A Cultural History of the Russian Emigration 1919-1939, Oxford University Press, 1990.			

参考書・参考資料等
授業中に適宜配布する。
学生に対する評価
講義における報告・議論への参加度（50％）、レポート（50％）。

授業科目名： ロシア国際関係史Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 斎藤 祥平
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：ロシア思想史 到達目標：ロシア思想史やそれに関連する文献を読解し、過去と現在におけるロシア思想の展開について理解を深める。受講者はゼミ形式で行われる毎回の授業にて文献の内容について報告および議論を行う。			
授業の概要 ロシア思想の歴史と現代における展開について理解を深めるとともに、文献の読解能力を高める。			
授業計画 第1回： 導入 第2回：テキスト第1章の読解と解説 第3回：テキスト第1章についての学生の発表、教員からのフィードバック 第4回：テキスト第2章の読解と解説 第5回：テキスト第2章についての学生の発表、教員からのフィードバック 第6回：テキスト第3章の読解と解説 第7回：テキスト第3章についての学生の発表、教員からのフィードバック 第8回：これまでの振り返りと議論、中間報告 第9回：テキスト第4章の読解と解説 第10回：テキスト第4章についての学生の発表、教員からのフィードバック 第11回：テキスト第5章の読解と解説 第12回：テキスト第5章についての学生の発表、教員からのフィードバック 第13回：テキスト第6章の読解と解説 第14回：テキスト第6章についての学生の発表、教員からのフィードバック 第15回：まとめと最終報告			
テキスト Marlene Laruelle, Russian Eurasianism; An Ideology of Empire, Woodrow Wilson Center Press, 2008.			

参考書・参考資料等
授業中に適宜配布する。
学生に対する評価
講義における報告・議論への参加度（50％）、レポート（50％）。

授業科目名： 経済政策論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高橋広雅
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：行動経済学の基本的な知識習得を目指す。 到達目標： ・行動経済学の考え方を理解し説明できる。 ・行動経済学の基本用語の意味を説明できる。			
授業の概要 伝統的な経済学では、人は完全に合理的な存在であると仮定します。しかし行動経済学の研究結果は、必ずしもそうではないことを示唆しています。経済政策を考える際にはこのような実際の人間の行動を知っておく必要があります。そこで本講義では行動経済学の基本的な知識習得を目指します。			
授業計画 第1回：イントロダクション：行動経済学とは何か 第2回：ヒューリスティック 第3回：バイアス 第4回：プロスペクト理論（損失回避） 第5回：プロスペクト理論（参照点） 第6回：プロスペクト理論（現状維持バイアス） 第7回：プロスペクト理論（確率の主観的重み付け） 第8回：フレーミング効果 第9回：フレーミング効果とバイアス 第10回：異時点間の意思決定（指数型割引） 第11回：異時点間の意思決定（先延ばし行動） 第12回：異時点間の意思決定（双曲割引） 第13回：社会選好（利他性） 第14回：社会選好（不平等回避） 第15回：まとめと復習 ※受講者の研究テーマに応じて授業計画を変更する場合がある。			

テキスト 筒井 義郎他（2017）「行動経済学入門」東洋経済新報社
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 授業参加度20% プレゼンテーション80%

授業科目名： 経済政策論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 広雅
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：ゲーム理論の習得および経済政策への応用			
到達目標：ゲーム理論の考え方を使得、社会問題の一側面を説明できる。			
授業の概要			
経済政策が意図した結果を出すためには、人々のインセンティブや相互依存関係を理解する必要がある。本講義ではゲーム理論の基本的な考え方を学ぶことをとおして、人と人との相互依存関係が社会にどのような状況をもたらすかを考える能力の習得を目的とする。			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
第2回：ゲーム理論の見取り図			
第3回：完備情報の戦略形ゲーム			
第4回：完全情報の展開形ゲーム			
第5回：完備情報ゲームの発展と応用			
第6回：不完全競争市場とゲーム理論			
第7回：混合戦略とゲーム理論			
第8回：一般の展開形ゲーム			
第9回：時間経過と長期的関係のゲーム理論			
第10回：不確実性とゲーム理論			
第11回：不完備情報の戦略形ゲーム			
第12回：不完備情報の展開形ゲーム			
第13回：協力ゲームの理論			
第14回：ゲーム理論のフロンティア			
第15回：まとめと復習			
※受講者の研究テーマに応じて講義計画を変更する場合がある。			
テキスト			
渡辺孝裕（2008）『ゼミナールゲーム理論入門』日本経済新聞社			
参考書・参考資料等			

特になし
学生に対する評価 授業参加度20% プレゼンテーション80%

授業科目名： 国際開発学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：目黒紀夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：国際開発学の基本概念 到達目標：国際開発学およびその3つの柱とされる開発経済学、開発政治学、開発社会学のそれぞれにおける基本概念を、各学問領域の特徴と歴史を踏まえて理解する。			
授業の概要 国際開発学、開発経済学、開発政治学、開発社会学を順番に取り上げ、いずれについてもまず各学問領域の特徴と歴史を教科書に基づいて講義をする。その後、各学問領域の基本概念について受講生に文献調査と発表、議論を課し、その結果を踏まえて教員が基本概念についてあらためて講義をする。以上のプロセスを国際開発学、開発経済学、開発政治学、開発社会学の各学問領域について順に行なう			
授業計画 第1回：国際開発学の歴史と特徴 第2回：国際開発学の基本概念——「能動」と「学際」 第3回：開発経済学の特徴 第4回：開発経済学の歴史 第5回：開発経済学の基本概念（1）——「市場原理」と「新自由主義」 第6回：開発経済学の基本概念（2）——「ゲーム理論」と「合理性」 第7回：開発政治学の特徴 第8回：開発政治学の歴史 第9回：開発政治学の基本概念（1）——「民主主義」と「ガバナンス」 第10回：開発政治学の基本概念（2）——「民主主義の定着」と「人間の安全保障」 第11回：開発社会学の特徴 第12回：開発社会学の歴史 第13回：開発社会学の基本概念（1）——「参加」と「潜在能力」 第14回：開発社会学の基本概念（2）——「統治性」と「主体性」 第15回：まとめ——基本概念を用いた「能動」と「学際」			
テキスト			

『国際開発学入門——開発学の学際的構築』（大坪滋・木村宏恒・伊東早苗編、勁草書房、2009年）
参考書・参考資料等 授業中に適宜、資料を配付する。
学生に対する評価 基本概念に関する調査・発表 30%、レポート課題 70%

授業科目名： 開発社会学／人類学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：目黒紀夫
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：専門書の精読を通じた研究方法の習得			
到達目標：開発社会学／開発人類学の専門書を、その研究方法および研究結果（先行研究レビュー、課題設定、情報収集、データ分析、結論付けなど）を意識的かつ批判的に検討しながら精読できるようになる。			
授業の概要			
受講生は各回に指定された教科書の範囲を精読し、その内容についてレジュメをあらかじめ作成する。授業ではまず任意の受講生がレジュメに基づき発表し、その後に教員が発表の講評と教科書の内容に関する講義を行なう。その後、教員と受講生全員とで総合的な議論を行なう。			
授業計画			
第1回：イントロダクション——著者の問題関心と調査地を決めるまでの経緯			
第2回：研究の背景と課題			
第3回：先行研究レビュー（1）——コミュニティ主体の保全			
第4回：先行研究レビュー（2）——人間と野生動物の関係			
第5回：対象社会の概要——マサイ			
第6回：対象地域の歴史——アンボセリ			
第7回：保全と便益（1）——「完全な参加と関与」の展開			
第8回：保全と便益（2）——便益が保全を裏切る可能性			
第9回：権利者としての選択（1）——権利と契約の理解			
第10回：権利者としての選択（2）——私的土地所有権と生計戦略			
第11回：外部者との対話（1）——民間企業との契約交渉			
第12回：外部者との対話（2）——住民が激怒する時			
第13回：コミュニティの代表＝表象（1）——危機に際しての語り			
第14回：コミュニティの代表＝表象（2）——地域における人間と野生動物の関係			
第15回：まとめ——さまよえるマサイ社会と野生動物の関係			
テキスト			
『さまよえる「共存」とマサイ——ケニアの野生動物保全の現場から』（目黒紀夫、新泉社、			

2014年)
参考書・参考資料等 授業中に適宜、資料を配布する
学生に対する評価 各回の授業における議論への貢献度：25％ レポート（授業を踏まえた開発社会学／人類学の研究計画の作成）：75％

授業科目名： 環境経済学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山根 史博
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標： 環境問題と経済とのつながりを理解し、環境問題の緩和・解消・改善に向けた諸制度を経済インセンティブの観点から類型化し、それぞれの効果を検討できるようになる。			
授業の概要 テキストを輪読する形式で学習していく（受講者各自がテキストの担当章の内容の整理と報告を行い、他の受講者と質疑応答、意見交換を行っていく）			
授業計画 第1回：環境経済学とは 第2回：私たちの生活と環境 第3回：外部性と市場の失敗 第4回：共有資源の利用と管理 第5回：公共財とフリーライダー問題 第6回：直接規制 第7回：環境税と補助金 第8回：直接交渉と排出権取引 第9回：政策手段の選択 第10回：環境の価値 第11回：環境評価手法：顕示選好法 第12回：環境評価手法：表明選好法 第13回：費用便益分析 第14回：生物多様性と生態系 第15回：エネルギー経済			
テキスト 栗山浩一・馬奈木俊介著『環境経済学をつかむ：第2版』有斐閣、2012			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価			
授業参加度（50％）、発表（30％）、質問・意見（20％）			

授業科目名： 環境経済学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山根 史博
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標： 基本的な統計分析手法とそれらを用いた環境評価手法を習得する。			
授業の概要 実際のデータと統計解析ソフトを使い、環境評価の手法を実践的に学ぶ。			
授業計画 第1回：ソフトの基本操作 第2回：データの整理・加工 第3回：データの集計 第4回：グラフ作成 第5回：仮説検定 第6回：回帰分析：線形回帰 第7回：回帰分析：非線形回帰 第8回：回帰分析：質的な従属変数 第9回：因子分析、主成分分析 第10回：クラスター分析、対応分析 第11回：パス解析、共分散構造分析 第12回：ヘドニック価格関数の推定 第13回：トラベルコスト法における需要関数の推定 第14回：仮想市場法におけるWTP関数の推定 第15回：選択型実験における間接効用関数の推定			
テキスト なし。配布資料の内容に沿って授業を行う。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 授業参加度（50％）、技術の習得水準（50％）			

授業科目名： 国際経営論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 李 在鎬
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：国際経営論の理論的考察と経営実践に関する研究 目標：国際経営論において、定評のある文献を熟読し、その根底にある「考え方」を理解した上で、受講生ご自分の研究に如何に活かせるかを自ら見出すこと			
授業の概要 本講義で受講者は当該分野において主流となる代表的な文献をサーベイし、関連主要理論の概要及び分析方法について議論する。			
授業計画 第1回：国際経営の概要と分析方法 第2回：国際経営におけるデータ分析の考え方 第3回：海外直接投資の意思決定プロセス 第4回：国際化と成果 第5回：製品サイクルにおける国際投資と貿易 第6回：海外直接投資と所有優位論 第7回：直接投資と立地選定の理論 第8回：折衷理論 第9回：国際戦略 第10回：準グローバル化 第11回：多国籍企業の組織構造 第12回：バリューチェーンの世界的展開 第13回：各自の研究計画の発表 第14回：学外授業 第15回：全体のまとめ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 『マネジメント・テキスト グローバル経営入門(新装版)』（浅川和宏著、日本経済新聞出版、			

2022)、『国際ビジネスⅠ』（チャールズ・W.L. ヒル著、楽工社、2013）、『国際ビジネスⅡ』（チャールズ・W.L. ヒル著、楽工社、2013）

学生に対する評価

評価の方法：発表（70%）、討論への参加度（30%）

但し、発表は教科書のレビューと研究テーマ報告をあわせ、3回以上求められる。

授業科目名： 国際経営論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 李 在鎬
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：企業の国際戦略 目標：国際経営論のベースを成している企業視点の戦略、組織、生産、人的資源管理論、マーケティング、財務に関する諸理論を理解する。			
授業の概要 本講義では受講者は国際ビジネスを展開している企業の戦略、組織、生産、人的資源管理、マーケティング、会計、財務に関する諸理論を渉猟した上で、主要な論点について先行研究を整理し、批判的に捉える。			
授業計画 第1回：近年の戦略論の概説とガイダンス 第2回：国際戦略の合理性と創発性 第3回：国際戦略と組織形態 第4回：戦略的提携 第5回：資源重視の戦略論 第6回：貿易の形態 第7回：グローバル生産と調達 第8回：国際マーケティング折衷理論 第9回：グローバル人材の獲得と育成 第10回：国際ビジネスと会計 第11回：多国際企業の財務管理 第12回：国際戦略の事例研究 第13回：各自の研究計画の発表 第14回：学外授業 第15回：全体のまとめ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等			

『新興国市場戦略論（東京大学ものづくり経営研究シリーズ）』（天野 論文・新宅 純二郎・中川 功一共編、有斐閣、2015）、『国際経営講義—多国籍企業とグローバル資本主義』（ジェフリー・ジョーンズ著、有斐閣、2007）、『ものづくりの国際経営戦略—アジアの産業地理学（東京大学ものづくり経営研究シリーズ）』（新宅純二郎・天野 論文共著、有斐閣、2009）

学生に対する評価

評価の方法：発表（70%）、討論への参加度（30%）

但し、発表は教科書のレビューと研究テーマ報告をあわせ、3回以上求められる。

授業科目名： マーケティング論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 李 玲
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：マーケティング戦略論			
到達目標：マーケティング戦略の基礎理論や戦略実行プロセスを説明できるようになる。			
授業の概要			
マーケティングの取り扱う範囲は多岐にわたる。本講義では、マーケティングの基本戦略に焦点を当て、それに関連する一連の立案と意思決定に関する基礎理論について受講生による発表と討論を通して学習し、マーケティング戦略の実行プロセスおよびそれにまつわる基本理論の理解を目指す。			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
第2回：マーケティングの定義			
第3回：マーケティング戦略とマーケティング計画の立案（理論）			
第4回：マーケティング戦略とマーケティング計画の立案（事例）			
第5回：市場セグメントとターゲット（理論）			
第6回：市場セグメントとターゲット（事例）			
第7回：競争への対処（理論）			
第8回：競争への対処（事例）			
第9回：製品戦略			
第10回：価格戦略			
第11回：チャネル戦略			
第12回：プロモーション戦略			
第13回：新製品の開発戦略			
第14回：グローバル市場への進出戦略			
第15回：総括			
テキスト			
フィリップ・コトラー&ケビン・レーン・ケラー著、恩蔵直人（監修）（2013）『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント（第12版）』ピアソン桐原			

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜指示する

学生に対する評価

報告の内容(50%)、討論への参加度・講義への貢献度(50%)などにより総合的に評価する

授業科目名： マーケティング論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 李 玲
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：ブランド・マネジメント 到達目標：ブランド・マネジメントにまつわる基礎理論について説明できるようになる。			
授業の概要 マーケティングの中で特に注目されているブランドに焦点を当て、顧客ベースのブランド・エクイティ論を中心に、その価値の確立、構築、強化と維持に関する基礎理論について発表・討論を通して学習し、ブランド・マネジメントの基礎理論の理解を目指す。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：ブランドとブランド・マネジメント 第3回：顧客ベースのブランド・エクイティ（理論） 第4回：顧客ベースのブランド・エクイティ（事例） 第5回：ブランド・ポジショニング（理論） 第6回：ブランド・ポジショニング（事例） 第7回：ブランド要素の選択 第8回：マーケティング・プログラムの設計 第9回：マーケティング・コミュニケーションの統合 第10回：二次的なブランド連想の活用 第11回：ブランド・エクイティの源泉の測定 第12回：ブランド・エクイティの成果測定 第13回：ブランディング戦略の設計と実行（理論） 第14回：ブランディング戦略の設計と実行（事例） 第15回：総括			
テキスト ケビン・レーン・ケラー著、恩蔵直人（監訳）（2010）『戦略的ブランド・マネジメント』東急エージェンシー。			
参考書・参考資料等			
必要に応じて適宜指示する。			
学生に対する評価 報告の内容(50%)、討論への参加度・講義への貢献度(50%)などにより総合的に評価する。			

授業科目名： 人的資源管理論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山崎 雅夫
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：修士課程レベルの基本的な人的資源管理論の習得を目的とする。 到達目標：企業の人に関する問題や課題について、実践的な考え方ができるようになることを到達目標とする。目先の状況に左右されることのない、問題の本質をつかむ能力を養う。			
授業の概要 企業が必要な人材をどういう基準で採用し、育成し、配置するか、従業員に対する賃金や評価制度はどうあるべきかなど、人の問題を幅広く議論する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 人的資源管理における「問」の立て方 第2回：雇用管理Ⅰ～採用～ 第3回：雇用管理Ⅱ～配置・異動～ 第4回：雇用管理Ⅲ～昇進管理～ 第5回：雇用管理Ⅳ～雇用調整～ 第6回：人材育成Ⅰ～能力開発～ 第7回：人材育成Ⅱ～キャリア～ 第8回：人事制度Ⅰ～等級制度～ 第9回：人事制度Ⅱ～評価制度～ 第10回：人事制度Ⅲ～賃金管理～ 第11回：労働時間管理 第12回：組織論 第13回：労使関係 第14回：若年者雇用 第15回：振り返り 人的資源管理論における「問」とは？			
テキスト 佐藤博樹・藤村博之・八代充史(2019)『新しい人事労務管理(第6版)』有斐閣アルマ.			
参考書・参考資料等 今野浩一郎・佐藤博樹(2020)『人事管理入門(第3版)』日本経済新聞出版.			

八代充史 (2019) 『人的資源管理論 -理論と制度 (第3版)』 中央経済社.
学生に対する評価
授業での報告・発言 (30%)、期末レポート (70%)

授業科目名： 人的資源管理論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山崎 雅夫
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：修士課程レベルの基本的な人的資源管理論の習得を目的とする。 到達目標：国・企業・個人の問題や課題について、実践的な考え方ができるようになることを到達目標とする。目先の状況に左右されることのない、問題の本質をつかむ能力を養う。			
授業の概要 国・企業・個人がそれぞれどのように考えるか、過去・現在・未来とみたときにどのようにあるべきか、そしてどのように行動するか、人の問題を幅広く議論する。			
授業計画 第1回：非正規雇用 第2回：派遣労働者 第3回：福利厚生 第4回：メンタルヘルス 第5回：外国人労働者 第6回：高齢者雇用 第7回：産業革命 第8回：人事政策(国際比較) 第9回：同一労働同一賃金 第10回：人事部 第11回：主体性 第12回：休職と復職 第13回：働き方改革、ワーク・ライフ・バランス 第14回：男性・女性という区別による労働観 第15回：振り返り 国・企業・個人の視野・視座・視点は？			
テキスト 佐藤博樹・藤村博之・八代充史(2019)『新しい人事労務管理(第6版)』 有斐閣アルマ.			
参考書・参考資料等 今野浩一郎・佐藤博樹(2020)『人事管理入門(第3版)』 日本経済新聞出版.			

八代充史 (2019) 『人的資源管理論 -理論と制度 (第3版)』 中央経済社.
学生に対する評価
授業での報告・発言 (30%)、期末レポート (70%)

授業科目名： 国際金融論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高久 賢也
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：国際金融の理論と政策Ⅰ			
到達目標：学生が、国際金融に関する深い専門知識を修得し、国際金融の諸問題に対する洞察力を高めることを目標とする。			
授業の概要			
国際金融論Ⅰおよび国際金融論Ⅱの講義では、国際金融の分野において世界的に著名なテキストである『International Economics：Theory and Policy (Tenth Edition)』の和訳版の輪読を行う。国際金融は、国際経済学の一分野であり、テキストではその内容を第13章から解説している。国際金融論Ⅰでは、第13章から第17章までの内容について理解していく。			
授業計画			
第1回：講義の概略、および導入			
第2回：国民所得計算と国際収支① 「国民所得計算」・「開放経済での国民所得勘定」			
第3回：国民所得計算と国際収支② 「国際収支勘定」			
第4回：為替レートと外国為替市場：アセットアプローチ① 「為替レートと国際取引」・「外国為替市場」			
第5回：為替レートと外国為替市場：アセットアプローチ② 「外国通貨資産の需要」			
第6回：為替レートと外国為替市場：アセットアプローチ③ 「外国為替市場での均衡」・「金利、期待、均衡」			
第7回：貨幣、金利、為替レート① 「お金の定義：概要」・「個人によるお金の需要（貨幣需要）」・「お金の総需要（総貨幣需要）」			
第8回：貨幣、金利、為替レート② 「均衡金利：通貨供給と貨幣需要の相互関係」・「短期での貨幣供給と為替レート」			
第9回：貨幣、金利、為替レート③ 「長期の貨幣、物価水準、為替レート」・「インフレと為替レートの動態」			
第10回：物価水準と長期的な為替レート① 「一物一価の法則」・「購買力平価（PPP）」・「購買力平価に基づく長期的為替レートモデル」			
第11回：物価水準と長期的な為替レート② 「PPPと一物一価法則の実証的証拠」・「PPPの問題点」			

を説明する」 第12回：物価水準と長期的な為替レート③ 「購買力平価を超えて：長期為替レートの一般モデル」 ・「国際金利格差と実質為替レート」・「実質金利平価」 第13回：短期的な産出と為替レート① 「開放経済における総需要の決定要因」・「総需要の方程式」・ 「短期的な産出の決まりかた」 第14回：短期的な産出と為替レート② 「短期的な産出市場均衡：DD曲線」・「短期的な資産市場均衡：AA曲線」・「開放経済の短期均衡：DD曲線とAA曲線を組み合わせる」 第15回：短期的な産出と為替レート③ 「金融・財政政策の一時的な変化」・「インフレバイアスなどの政策形成の問題」・「金融・財政政策の恒久的シフト」・「マクロ経済政策と経常収支」・ 「貿易フローの段階的調整と経常収支の動向」・「流動性の罫」 定期試験
テキスト P. R. クルーグマン・M. オブストフェルド・M. J. メリッツ著 『クルーグマン国際経済学 理論と政策 原著第10版 下 金融編』 丸善出版 2017年
参考書・参考資料等 必要があれば講義中に適宜紹介する。
学生に対する評価 授業態度、発表や議論に対する取り組みなどを総合的に評価する。

授業科目名： 国際金融論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高久 賢也
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：国際金融論の理論と政策Ⅱ			
到達目標：学生が、国際金融に関する深い専門知識を修得し、国際金融の諸問題に対する洞察力を高めることを目標とする。			
授業の概要			
国際金融論Ⅰおよび国際金融論Ⅱの講義では、国際金融の分野において世界的に著名なテキストである『International Economics：Theory and Policy (Tenth Edition)』の和訳版の輪読を行う。国際金融は、国際経済学の一分野であり、テキストではその内容を第13章から解説している。国際金融論Ⅱでは、第18章から第22章までの内容について理解していく。			
授業計画			
第1回：講義の概略、および導入			
第2回：固定為替レートと外国為替介入① 「なぜ固定為替レートなんかを研究するんだろうか？」・「中央銀行の介入と貨幣供給」			
第3回：固定為替レートと外国為替介入② 「中央銀行はどうやって為替レートを固定するか」・「固定為替レートの安定化政策」・「国際収支危機と資本逃避」			
第4回：固定為替レートと外国為替介入③ 「管理フロート制と不貳化介入」・「国際通貨制度における準備通貨」・「金本位制」			
第5回：国際通貨システム：歴史のおさらい① 「開放経済におけるマクロ経済政策の目標」・「通貨システムの分類：開放経済の通貨のトリレンマ」・「金本位制での国際マクロ経済政策（1870～1914）」			
第6回：国際通貨システム：歴史のおさらい② 「戦間期（1918?39）」・「ブレトンウッズ体制と国際通貨基金（IMF）」・「国内均衡と対外均衡を達成する政策オプションの分析」・「ブレトンウッズ体制下のアメリカの対外均衡問題」			
第7回：国際通貨システム：歴史のおさらい③ 「変動為替レートの支持論」・「変動為替レートのもとでのマクロ経済的相互依存」・「1973年以後の教訓とは？」・「固定為替レートは多くの国にとってそもそも選択肢になり得るか」			
第8回：金融のグローバル化：機会と危機① 「国際資本市場と取引による利益」・「国際銀行業務と			

国際資本市場」

第9回：金融のグローバル化：機会と危機② 「銀行業務と金融の脆弱性」・「国際銀行業務の規制という難問」

第10回：金融のグローバル化：機会と危機③ 「国際金融市場は資本とリスクをうまく配分できただろうか？」

第11回：最適通貨圏とユーロ① 「ヨーロッパの単一通貨はどう発展したか」

第12回：最適通貨圏とユーロ② 「ユーロとユーロ圏の経済政策」・「最適通貨圏の理論」

第13回：最適通貨圏とユーロ③ 「ユーロ危機とEMUの未来」

第14回：発展途上国：成長、危機、改革① 「世界経済の所得，富，成長」・「発展途上国の構造的な特徴」・「発展途上国の借入れと負債」

第15回：発展途上国：成長、危機、改革② 「東アジア：成功と危機」・「発展途上国の危機の教訓」・「世界の金融「アーキテクチャ」再編」・「世界資本フローと世界所得分配を理解する：地理が命運を決めるのか？」

定期試験

テキスト

P. R. クルーグマン・M. オブストフェルド・M. J. メリッツ著 『クルーグマン国際経済学 理論と政策 原著第10版 下 金融編』 丸善出版 2017年

参考書・参考資料等

必要があれば講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

授業態度、発表や議論に対する取り組みなどを総合的に評価する。

授業科目名： 会計学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井手吉 成佳
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 有価証券報告書に示される会計情報について発展的な内容を理解する。			
授業の概要 財務諸表の個々の要素について理解を深めるとともに、その背後にある制度的な仕組みや理論についても理解する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：会計の機能と制度 第3回：利益計算の仕組み 第4回：会計理論と会計基準 第5回：利益測定と資産評価 第6回：現金・預金と有価証券 第7回：売上高と売上債権 第8回：棚卸資産と売上原価 第9回：有形固定資産と減価償却 第10回：無形固定資産と繰延資産 第11回：負債 第12回：株主資本と純資産 第13回：財務諸表の作成と公開 第14回：連結財務諸表 第15回：外貨建取引等の換算			
テキスト 櫻井久勝『財務会計講義』中央経済社			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 レポート（100％）によって評価する。			

授業科目名： 会計学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井手吉 成佳
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 有価証券報告書を活用した経営分析について発展的な内容を理解する。			
授業の概要 有価証券報告書に掲載される情報や資料を用いた分析を理解するとともに、その中にある会計情報の意義についても理解する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：財務諸表の役割と仕組み 第3回：貸借対照表 第4回：損益計算書 第5回：キャッシュ・フロー計算書 第6回：会計方針の注記 第7回：分析の視点と方法 第8回：収益性の分析 第9回：生産性の分析 第10回：安全性の分析 第11回：不確実性によるリスクの分析 第12回：成長性の分析 第13回：投資意思決定有用性 第14回：株式価値評価モデル 第15回：債券の格付けと倒産予測への利用			
テキスト 櫻井久勝『財務諸表分析』中央経済社			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 レポート（100％）によって評価する。			

授業科目名： 公会計論Ⅰ	教員の免許状取得のため 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 城多 努
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 公会計を理解するうえで必要な、財務会計や管理会計の基礎的な知識をつけること			
授業の概要 現在、国や地方自治体の財政危機や行政改革が叫ばれる中、そのためのツールとしての会計システムにも注目が集まっている。この講義では受講生が公会計を理解するのに必要な、会計の基礎知識を学ぶ。			
授業計画 1. ガイダンス・会計の目的と意義 2. 単式簿記と複式簿記 3. 財務諸表：貸借対照表 4. 財務諸表：損益計算書 5. 財務諸表：キャッシュフロー計算書他 6. 法令と会計基準 7. 会計監査 8. 管理会計とは 9. 原価計算（費目別・部門別原価計算） 10. 原価計算（総合原価計算・個別原価計算） 11. 原価計算（標準原価計算・活動基準原価計算） 12. 意思決定会計（損益分岐点分析・線形計画法） 13. 意思決定会計（業務的意思決定） 14. プレゼンテーション 15. まとめ			
テキスト 桜井久勝「財務会計入門」（有斐閣）			
参考書・参考資料等 必要に応じて資料を配布する			
学生に対する評価 講義内のプレゼンテーション（100％）による			

授業科目：公会計論Ⅱ	教員の免許状取得のため 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 城多 努
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
国や地方自治体における財政や会計の問題点について理解し、考える力を養う。			
授業の概要			
この講義では受講生が国・地方自治体および非営利組織における、会計とマネジメントについて学び、これらの組織における会計の役割について考える。			
授業計画			
1. ガイダンス：公会計の目的・意義			
2. 公会計と財政			
3. 予算制度			
4. 一般会計と特別会計			
5. 公会計改革			
6. 独立行政法人・国立大学法人			
7. 地方自治体の会計（1）財政			
8. 地方自治体の会計（2）自治体財務書類			
9. 地方自治体の会計（3）地方公営企業			
10. 公監査			
11. 非営利法人会計（1）公益社団・財団の会計			
12. 非営利法人会計（2）学校法人・社会福祉法人の会計			
13. 非営利法人会計（3）その他非営利法人の会計			
14. プレゼンテーション			
15. まとめ			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 必要に応じて資料を配布する			
学生に対する評価			
講義内のプレゼンテーション（100％）による			

授業科目名： 国際商務論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 寺井（小田） 里沙
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：国際売買・貿易および国際運送の実務、具体的な諸問題			
目標：国際売買・貿易および国際運送における当事者、固有のリスク、その回避手段などについて具体的なイメージをもって理解できる。			
授業の概要			
例えば、国際売買・貿易において、買主が信用状の差し入れ義務があるにもかかわらずその義務を果たさない場合、売主は商品を船積、輸出しなければならないか。また、商品に瑕疵があった場合、買主は売主にいかなる法律に基づいていかなる請求をすることができるか。			
また、国際運送のうち船舶による運送にも様々な形態（裸傭船契約、定期傭船契約など）があるが、船積された商品が毀損、滅失した場合、荷送人はいかなる相手方を「運送人」として損害賠償請求できるか。			
本講義では、上記のような国際売買・貿易および国際運送に関する具体的な諸問題について、主に裁判例を通して紹介、検討する。			
授業計画			
第1回：国際商取引の特徴			
第2回：国際売買・貿易（1）仕組みと種類			
第3回：国際売買・貿易（2）関連する法律			
第4回：国際売買・貿易（3）信用状、荷為替手形			
第5回：国際売買・貿易（4）売主の義務			
第6回：国際売買・貿易（5）買主の義務			
第7回：国際売買・貿易（6）定型的取引条件（INCOTERMS）			
第8回：国際売買・貿易（7）契約条項			
第9回：国際売買・貿易（8）海上保険			
第10回：国際売買・貿易（9）通関制度			
第11回：国際売買・貿易（10）為替予約			
第12回：国際運送（1）国際海上運送			
第13回：国際運送（2）国際航空運送			

第14回：国際運送（3）国際複合運送
15．総括
テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜指示します。
学生に対する評価 授業中の発表（50％）、質疑応答（50％）の内容により評価する。

授業科目名： 国際商務論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 寺井（小田） 里沙
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：海外進出、国際取引のリスクと契約条項、関連法			
目標：海外進出、国際取引（対内直接投資を含む）に伴うリスクを理解し、その回避策としての契約条項や関連法について具体的なイメージを持って理解できる。			
授業の概要			
企業の海外進出の手法の一つとして共同事業がある。その代表例は合弁企業の設立であるが、多くの日本企業が合弁企業の運営に失敗しており、トラブルが合弁の相手方との裁判にまで発展することもある。そのようなリスクを回避するためには、契約締結段階でどのようなことを確認し、契約条項に反映させるべきか。 また、海外からの投資を呼び込む際（対内直接投資）には、外為法に留意しなければならないが、どのような規制がかけられているか。特に最先端技術の中国への流出の懸念から、昨今、外為法にどのような改正がなされたか。 本講義では、上記のような、海外進出、国際商取引に関するリスクや規制について、最新の時事問題や具体的な裁判例を通して紹介、検討する。			
授業計画			
第1回：国際商取引の特徴			
第2回：企業の海外進出（1）販売店・代理店契約			
第3回：企業の海外進出（2）技術移転契約			
第4回：企業の海外進出（3）共同事業			
第5回：企業の海外進出（4）大規模建設工事・プラント輸出			
第6回：企業の海外進出（5）金融取引①（貸付契約、プロジェクトファイナンス）			
第7回：企業の海外進出（6）金融取引②（ファイナンス・リース契約）			
第8回：企業の海外進出（7）企業買収			
第9回：国際商取引に関する規制（1）国際的規制と国内的規制			
第10回：国際商取引に関する規制（2）外国為替管理			
第11回：国際商取引に関する規制（3）貿易管理			
第12回：紛争解決（1）国際民事訴訟			

第13回：紛争解決（2）国際仲裁 第14回：紛争解決（3）調停・和解 第15回：総括
テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜指示します。
学生に対する評価 授業中の発表（50％）、質疑応答（50％）の内容により評価する。

授業科目名： 現代思想I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上尾真道
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：現代思想としての精神分析理論の知識の習得			
到達目標：精神分析理論の成立過程とその主要概念について体系的な理解を獲得し、それら知識に基づいて20世紀以降の社会的課題について分析的な思考を展開することができるようになる。			
授業の概要			
本講義を受講する学生は、この理論の骨格についてフロイト、ラカンの二人を中心に学び、現代思想の理解にとって欠かせない思想枠組みについての知識を得る。また、その理論展開と不可分な精神病理学や哲学からの影響についても知見を深め、専門分野に限られない広い視野のもとで、現代思想における精神分析の意義の理解を獲得する。			
授業計画			
第1回：導入——精神分析と現代思想			
第2回：文学と幻想の関係			
第3回：抑圧されたものの回帰			
第4回：『心理学草案』読解			
第5回：転移と反復			
第6回：「分裂」という問題			
第7回：エロスとタナトス			
第8回：構造主義と精神分析			
第9回：動物と人間の言語活動			
第10回：ロゴスと真理			
第11回：反復と自動機械			
第12回：文字の審級			
第13回：父の隠喩			
第14回：意味と存在			
第15回：まとめ			
テキスト			

なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜、指示する。
学生に対する評価 授業内のミニレポート：50%、最終期末レポート：50%

授業科目名： 現代思想II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上尾真道
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：構造主義・ポスト構造主義の思想についての基礎知識の獲得 到達目標：構造主義およびポスト構造主義の思想について説明することができるようになり、またそれらの知識を用いて、現代社会の問題について説得的に論じることができるようになる。			
授業の概要 20世紀フランスにおいて、哲学のみならず人類学・精神分析・文学・政治思想といった学問分野に領域横断的に影響を与えた構造主義の思想、およびその批判的超克を試みたポスト構造主義の思想について学ぶ。その前史からたどり直しつつ、構造主義・ポスト構造主義の様々な思想家の思想の要点について知識を獲得し、それが現代社会の考察にどのように反映できるか考える。			
授業計画 第1回：導入—構造主義・ポスト構造主義とは何か 第2回：モースの贈与論 第3回：フロイトの無意識 第4回：ソシュールと記号言語学 第5回：レヴィ＝ストロースの構造主義人類学 第6回：ラカンの構造主義精神分析 第7回：アルチュセールのイデオロギー論 第8回：フーコーのエピステーメ 第9回：デリダのエクリチュール論 第10回：ドゥルーズの差異の哲学 第11回：サドとマゾッホ 第12回：ドゥルーズの構造主義批判 第13回：ドゥルーズ＝ガタリの精神分析批判 第14回：ドゥルーズ＝ガタリの哲学 第15回：まとめ			
テキスト			

なし
参考書・参考資料等 上尾真道『ラカン 真理のパトス』（人文書院 2017）
学生に対する評価 授業内のミニレポート：50%、最終期末レポート：50%

授業科目名： 歴史資料研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山口（山田）えり
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会、高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：歴史資料・史料の読解、及び先行研究の省察。 到達目標：古文書・古記録などの変体漢文の読解ができるようになる。あるいは、海外における前近代日本史研究の知識を習得し、新たな視点を提示できるようになる。			
授業の概要：日本文化に関わる文献への理解を深め、史料を読解する基本的なツールについて学び、それらを活用し、文献を精読する能力を身につける。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：これまでの研究のあり方を問う 第3回：扱う史料・資料の決定 第4回：史料・資料の研究史についての検討 第5回：史料・資料の構成・特徴についての検討 第6回：史料・資料の成立過程についての検討 第7回：史料・資料の原文についての検討 第8回：史料・資料の先行研究の整理 第9回：史料・資料の工具類の確認 第10回：史料・資料の訓点の確認 第11回：史料・資料の読み下し文についての検討 第12回：史料・資料の語釈についての検討 第13回：史料・資料の現代語訳についての検討 第14回：史料・資料についてのまとめ 第15回：これからの研究のあり方について考える			
テキスト あつかう史料・資料については、受講者の関心にそって決定する。 必要に応じ、授業中に資料を配布する。			
参考書・参考資料等 苅米一志『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』吉川弘文館、2015年。			

その他、授業中に紹介する。

学生に対する評価

各回の授業における議論への貢献度（20%）や、報告時のレジュメなどの提出物（40%）、最終レポート（40%）の内容で評価します。

授業科目名： 日本文化史研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山口（山田）えり
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：研究書及び史料・資料の精読を通じた日本文化史研究に必要な知識の習得。			
到達目標：古文書・古記録などの変体漢文の読解を通し、日本文化史研究に必要な知識と考え方を身につける。あるいは、海外における前近代日本史研究の知識を習得し、新たな視点を提示できるようになる。			
授業の概要：日本文化に関わる文献への理解を深め、史料を読解する基本的なツールについて学び、それらを活用し、文献を精読する能力を向上させ、日本文化について論理的に考察を行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：これまでの研究のあり方を問う			
第3回：研究史整理のための工具類の確認			
第4回：研究書・史料・資料の先行研究の整理			
第5回：授業で扱う研究書・史料・資料の決定			
第6回：授業で扱う研究書・史料・資料の研究史についての検討			
第7回：授業で扱う研究書・史料・資料の構成・特徴についての検討			
第8回：授業で扱う研究書・史料・資料の成立過程についての検討			
第9回：史料・資料の原文についての検討			
第10回：史料・資料の訓点の確認			
第11回：史料・資料の読み下し文についての検討			
第12回：史料・資料の語釈についての検討			
第13回：史料・資料の現代語訳についての検討			
第14回：研究書・史料・資料についてのまとめ			
第15回：これからの研究のあり方について考える			
テキスト			
あつかう研究書・史料・資料については、受講者の関心にそって決定する。			
必要に応じ、授業中に資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
芥米一志『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』吉川弘文館、2015年。			

その他、授業中に紹介する。

学生に対する評価

各回の授業における議論への貢献度（20%）や、報告時のレジュメなどの提出物（40%）、最終レポート（40%）の内容で評価します。

授業科目名： ラテンアメリカ文化 論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉江 貴文
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：近代ヒスパニック世界を対象とするリテラシー研究や文書メディア論の現状について、基礎的な理解を得る。			
到達目標：16世紀以降、世界的な規模でスペイン帝国が構築した情報ネットワーク・システムの実態について理解を深め、説明できるようになる。			
授業の概要			
スペイン帝国の植民地支配を支えた情報ネットワークの成立過程と機能について、関連資料の購読などにもとづいて理解を深める。			
授業計画			
第1回：序論 近代ヒスパニック世界と文書ネットワーク			
第2回：帝国と情報の役割（1. 統治と知の関係）			
第3回：帝国と情報の役割（2. 文書ネットワークの土台）			
第4回：帝国と情報の役割（3. スペイン王宮と知による支配）			
第5回：知の獲得と実践のプロセス（1. 大航海時代と文書メディア）			
第6回：知の獲得と実践のプロセス（2. 通商院と知の収集システム）			
第7回：知の獲得と実践のプロセス（3. インディアス議会の改革）			
第8回：知の獲得と実践のプロセス（4. インディアス国勢調査の構想）			
第9回：植民地支配と知の役割（1. 植民地化の史的プロセス）			
第10回：植民地支配と知の役割（2. 植民地支配の審級）			
第11回：植民地支配と知の役割（3. インディアス法の規範化）			
第12回：植民地支配と知の役割（4. 年代記とコスモグラフィ）			
第13回：文書ネットワークの成立と機能（1. 知から情報へ）			
第14回：文書ネットワークの成立と機能（2. 文書化されるインディアス）			
第15回：総論			
テキスト			
Brendecke, A 2012, “Imperio e informacion. Funciones del saber en el dominio colonial español.” Iberoamericana.			

参考書・参考資料等

網野徹也 2018 『興亡の世界史12 インカとスペイン 帝国の交錯』 講談社学術文庫。

学生に対する評価

平常点（各セクションの課題・コメント・小テストなど）60%、期末課題（レポートなど）40%の割合でポイント化し、総合評価に基づいて成績を算定する。

授業科目名： ラテンアメリカ文化 論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉江 貴文 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会、高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：スペイン植民地期以降のアンデス地域（ペルー、ボリビア）を中心としたラテンアメリカ世界の先住民と文書との歴史的関係について文献資料を題材に理解を深める。 到達目標：16世紀以降のアンデス地域における公文書管理システムの働きや先住民社会における文書実践の様態について理解し、要点を説明できるようになる。			
授業の概要			
スペイン植民地期以降のラテンアメリカ社会における公文書管理システムの働きや先住民社会における文書実践の様態について歴史人類学の視点から考察する。			
授業計画			
第1回：序論 近代ヒスパニック世界と公文書管理システム 第2回：先住民公証人と文書（1. ヒスパニック世界における公証人制度の由来） 第3回：先住民公証人と文書（2. インディアスへの公証人制度の移植） 第4回：先住民公証人と文書（3. ヌエバ・エスパーニャの事例分析） 第5回：先住民公証人と文書（4. 先住民社会と公証人の役割） 第6回：植民地期ペルーにおける文書と権力（1. ペルー副王領の社会文化的コンテクスト） 第7回：植民地期ペルーにおける文書と権力（2. 書式マニュアルと真実の関係） 第8回：植民地期ペルーにおける文書と権力（3. 慣習法と文書記録） 第9回：植民地期ペルーにおける文書と権力（4. アーカイブと権力の生成） 第10回：アンデスにおける公証人の文書作成術（1. 16世紀クスコの先住民公証人） 第11回：アンデスにおける公証人の文書作成術（2. 文書の真正性と「声」） 第12回：アンデスにおける公証人の文書作成術（3. 先住民公証人の法的ディスコース） 第13回：アンデスにおける公証人の文書作成術（4. 先住民参事会における公証人帳簿の分析） 第14回：ラテンアメリカ社会における公文書管理システムの働き 第15回：まとめ			
テキスト			
Navarro Gala, Rosario, 2015, “El libro de protocolo del primer notario indigena.” Iberoamericana.			

参考書・参考資料等
Rappaport, Joanne, 2012, "Beyond the Lettered City." Duke University Press.
学生に対する評価
平常点（各セクションの課題・コメント・小テストなど） 60%、期末課題（レポートなど） 40% の割合でポイント化し、総合評価に基づいて成績を算定する。

授業科目名： 中東イスラーム社会 論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田浪 亜央江 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：社会システムとしてのイスラーム 到達目標：論文など一定量の文章を読み、論旨および論者のスタンスを把握した上で、自分の議論を作り出せるようになること。			
授業の概要 イスラームを宗教として以上に、非ムスリムをも包括する社会全体を覆うシステムとして捉え、この社会の特性を捉える。前半は国境線による分割以前のイスラーム社会の記憶を辿り、その可能性を考察することを通じて、この地域の混迷状況の起源としての諸国家体制を再考する。後半はイスラームが社会で果たす役割を踏まえたうえで、国民国家とイスラームが結びついたさいの問題を考察する。指定する参考資料について履修生が順番にレジュメを作成し、発表とコメントを中心に進める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：イスラーム社会に関する近年の研究動向・日本 第3回：イスラーム社会に関する近年の研究動向・海外 第4回：オスマン帝国再考 統治の観点から 第5回：オスマン帝国再考 社会史の観点から 第6回：オスマン帝国再考 移動の観点から 第7回：ベドウィンの表象・日本語文献 第8回：ベドウィンの表象・英語文献 第9回：委任統治と宗教 第10回：委任統治と現地社会 フランス委任統治 第11回：委任統治と現地社会 イギリス委任統治 第12回：委任統治と現地社会 統治領間の関係 第13回：イスラームと相互扶助 第14回：イスラームと異人歓待 第15回：まとめ			

テキスト なし
参考書・参考資料等 論文など輪読用資料を配布。
学生に対する評価 授業中のコメントや発表（50％）、テーマごとに提出するペーパー（50％）

授業科目名： 中東イスラーム社会 論II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田浪 亜央江
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：社会システムとしてのイスラーム			
到達目標：文献を読み、その議論を自分の論文や研究分野のなかで応用する方法を学ぶ。			
授業の概要			
社会システムとしてのイスラームに関わるテーマを意識しつつ、日本社会の諸問題と関わる領域について履修生の研究内容に資する文献を相談しながら選び、講読する。また履修者の希望や研究の進度に応じ、履修者の研究テーマと本授業の内容が関わりを持つ内容を中心に、研究発表を行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：オリエンタリズム概論			
第3回：オリエンタリズムと日本			
第4回：日本におけるオリエンタリズム			
第5回：西欧とイスラーム 近代以降			
第6回：西欧とイスラーム 1980年代以降			
第7回：西欧とイスラームの関係から日本が学ぶこと			
第8回：日本におけるイスラーム			
第9回：日本における「もてなし」とイスラームの「ディヤーファ」			
第10回：「歓待」概念とイスラームの「ディヤーファ」			
第11回：日本におけるムスリム子弟の学校教育			
第12回：日本におけるムスリム子弟の社会教育			
第13回：政教分離とイスラーム 概要			
第14回：政教分離とイスラーム 復興運動			
第15回：まとめ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等			
輪読用のテキストを適宜配布。			
学生に対する評価 発表および発言（50%）、文献に関するペーパー（50%）			

授業科目名： アフリカ社会論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：田川玄
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 主に文化人類学の視点からアフリカの若者について理解し説明できるようになることを到達目標とします。			
授業の概要 近年、アフリカの人口増加が注目されているが、そのなかで若者の存在が政治的経済的な観点から議論されている。この授業では、主として文化人類学の立場からアフリカの若者について理論と民族誌の両面から学習する。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：世界人口の動向 第3回：アフリカの人口論 第4回：政治と若者 第5回：経済と若者 第6回：暴力と若者 第7回：宗教と若者 第8回：開発と若者 第9回：教育と若者 第10回：若者の民族誌：タンザニア 第11回：若者の民族誌：ウガンダ 第12回：若者の民族誌：ケニア 第13回：若者の民族誌：エチオピア 第14回：若者の民族誌：南スーダン 第15回：若者とは誰であるのか？ 定期試験は行わない。			
テキスト なし			
参考書・参考資料等			

橋本栄莉 2018「複数の像を生きる若者たち：アフリカの「若者」研究の動向と新たな研究の視座」『スワヒリ&アフリカ研究』29:1-17。

他の資料は授業中に提示する。

学生に対する評価

プレゼンテーション 50%、ディスカッション 50%

授業科目名： アフリカ文化論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：田川玄 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 主に文化人類学の視点からアフリカの老いについて理解し説明できるようになることを到達目標とします。			
授業の概要 近年、グローバルエイジング（地球規模の人口高齢化）が議論されている。 この授業では、主として文化人類学の立場からアフリカにおける老いについて学習する。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：グローバルエイジング 第3回：老いの人類学 第4回：政治と老人 第5回：経済と老人 第6回：暴力と老人 第7回：宗教と老人 第8回：グローバル化と老人 第9回：老人の民族誌：マダガスカル 第10回：老人の民族誌：エチオピア 第11回：老人の民族誌：ケニア（サンプル） 第12回：老人の民族誌：ケニア（ギリアマ） 第13回：老人の民族誌：ケニア（ルオ） 第14回：老人の民族誌：コモロ 第15回：老人とは誰であるのか？			
テキスト 田川玄・慶田勝彦・花渕馨也共編2016『アフリカの老人』九州大学出版会			
参考書・参考資料等 授業中に適宜、指示する。			
学生に対する評価			
プレゼンテーション 50%、ディスカッション 50%			

授業科目名： フランス文学・文化論I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大場静枝
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：ナショナリズムと文芸運動 到達目標：19 世紀後半から 20 世紀初頭に起こったナショナリズムや文芸運動に関する評論、研究書等を読むことで、ナショナリズムと文学の関係を理解する。また、文献を読み解き、それを基に論理的に考え、文章化し、発表する能力を身につける。			
授業の概要 本授業では、「文学」「言語」「ナショナリズム」をキーワードに、関係する評論や研究書を読むことで、国家と民族、国民文学と民族文学や地方文学、言語文化の諸相について考察し、理解を深める。具体的には、民族主義の誕生、民族主義と文芸運動、ナショナリズムの諸相、ナショナリズム文学、一言語主義と地域語の受難などについて考えていく。			
授業計画 授業は講義、文献の精読、発表・討論を組み合わせで行う。精読する文献については、受講生と相談の上、決定する。その際、日本語の文献のほか、可能であればフランス語の評論や研究書の精読も行う。 第1回：ガイダンス（授業の進め方、精読文献の選定） 第2回：国家と民族（1）：国家とは何か？ 第3回：国家と民族（2）：民族とは何か？ 第4回：精読文献（例：ルナン『国家とは何か』等）の発表と討論 第5回：民族とナショナリズム（1）： 国家の中の民族 第6回：民族とナショナリズム（2）： 民族ナショナリズム 第7回：民族とナショナリズム（3）：精読文献（例：ゲルナー『民族とナショナリズム』等）の発表と討論 第8回：言語とナショナリズム（1）：一言語主義と国語の制定 第9回：言語とナショナリズム（2）：一言語主義と地域語の弾圧 第10回：言語とナショナリズム（3）：精読文献（例：バーク『近世ヨーロッパの言語と社会』等）の発表と討論 第11回：文学とナショナリズム（1）：ロマン主義と民族主義			

第12回：文学とナショナリズム（2）：民謡の収集と民族主義 第13回：文学とナショナリズム（3）：国民（民族）文学とナショナリズム 第14回：文学とナショナリズム（4）：精読文献（例：ティエス『国民アイデンティティの創造』等）の発表と討論 第15回：文学とナショナリズム（5）：精読文献（例：ホブズボーム『匪賊の社会史』等）の発表と討論
テキスト 4～5冊の文献を指定する
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介
学生に対する評価 期末レポート：60%（内容の理解、論述の適切さなどを総合的に判断する） 平常点：40%（発表と討論の内容を総合的に判断する）

授業科目名： フランス文学・文化論 II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大場静枝
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：文学に見る民族運動——フランス・ブルターニュ地方を事例として			
到達目標：19 世紀から 20 世紀初頭におけるロマン主義文学やナショナリズム文学の作品の読解を通して、民族主義や民族のアイデンティティの問題を理解する。さらに、文献を読み解き、それを基に論理的に考え、文章化し、発表する能力を身につける。			
授業の概要			
本授業では、「フランス文学・文化論I」を踏まえて、ナショナリズム文学の作品の分析を行う。文学作品の分析を通して、文学と民族運動の関係性について考察する。具体的には、フランス・ブルターニュ地方で起こったブルターニュ文学・ブルトン語文学の復興を事例に、この地域の文学作品を読解することで、地域の文芸運動と言語文化を中心とする民族運動の諸相を理解する。			
授業計画			
授業は、講義、文献の精読、発表・討論を組み合わせで行う。分析する文学作品については、受講生と相談の上、決定する。その際、日本語の文献のほか、フランス語の文献の読解も行う。			
第1回：ガイダンス（授業の進め方、文学作品の選定）			
第2回：前ロマン主義（1）：『オシアン』とオシアニズム			
第3回：前ロマン主義（2）『オシアン』に関連する作品（例：ヘルダー『ヘルダー民謡集』や『オシアン論』）の分析、発表、討論			
第4回：前ロマン主義に関連する作品（例：スタール夫人『文学論』）の分析、発表、討論			
第5回：ロマン主義（1）：ロマン主義と自由主義			
第6回：ロマン主義（2）：エルナニ事件			
第7回：ロマン主義（3）：ロマン主義に関連する作品（例：ラマルティエヌ『ジョスラン』）の分析、発表、討論			
第8回：民族主義（1）：ブルターニュにおける民族主義文学の誕生			
第9回：民族主義（2）：『バルザス=ブレイス』とバルザス=ブレイス論争			
第10回：民族主義（3）：ラ・ヴィルマルケの『バルザス=ブレイス』の分析、発表、討論			

第11回：「エムザオ」と文学（1）：ブルターニュ民族運動「エムザオ」とは？
第12回：「エムザオ」と文学（2）：地方分権主義者の詩人ブレイモール生涯
第13回：「エムザオ」と文学（3）：ブレイモールの作品（例：『ひざまづいて』）の分析、発表、討論
第14回：「エムザオ」と文学（4）：分離独立主義者の詩人カミーユ・ル・メルシエ・デルム
第15回：「エムザオ」と文学（5）：ル・メルシエ・デルムの作品（例：『アイルランドよ、永遠なれ』や『西国の血』）の分析、発表、討論
テキスト
5～6冊の指定された文学作品
参考書・参考資料等
授業内で適宜紹介
学生に対する評価
期末レポート：60%（内容の理解、論述の適切さなどを総合的に判断する）
平常点：40%（発表と討論の内容を総合的に判断する）

授業科目名： 比較国際教育学		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：卜部匡司 担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項				
授業の到達目標及びテーマ				
・比較国際教育学に関連する文献を精読することができる（知識・技能）。 ・教育に関する比較文化論的な洞察ができる（思考力・判断力・表現力）。 ・地球的視座からの現象理解に努め建設的な議論ができる（主体性・協働性）。				
授業の概要				
比較国際教育学の知見を手がかりに、グローバルな視点から「教育」を把握するとともに、「教育」を通して世界の国ぐにや地域を理解しようとする。各国の教育制度や学校文化に関する理解を深め、教育改革の世界的動向について考察する。				
授業計画				
第1回：比較国際教育学の学問領域とその歴史				
第2回：現在の比較国際教育学の研究動向				
第3回：政策研究と比較国際教育学				
第4回：グローバル人材の育成と比較国際教育学				
第5回：開発教育およびESDと比較国際教育学				
第6回：平和教育（ヒロシマ）と比較国際教育学				
第7回：比較国際教育学における研究方法論				
第8回：比較国際教育学における歴史研究				
第9回：比較国際教育学における解釈学的研究				
第10回：比較国際教育学における経験科学的研究				
第11回：比較国際教育学における批判理論的研究				
第12回：比較国際教育学における分析哲学的研究				
第13回：比較国際教育学におけるシステム論的研究				
第14回：比較国際教育学における脱構築論的研究				
第15回：教育改善に向けた比較国際教育学の貢献				
テキスト 教科書は使用せず、資料を随時配布する。				
参考書・参考資料等 参考書については、随時必要に応じて紹介する。				
学生に対する評価 課題の発表（85%）、討議への参加状況（15%）				

授業科目名： 持続可能な開発のた めの教育（ESD）論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：ト部匡司
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
授業の到達目標及びテーマ			
・わが国政府の国連提案でESDが始まった経緯を理解する（知識・技能）。 ・環境と開発を考慮したESDの実践事例を分析できる（思考力・判断力・表現力）。 ・持続可能な社会づくりに貢献するESD実践に取り組む（主体性・協調性）。			
授業の概要			
ESD（持続可能な開発のための教育）の基本的概念や歴史的経緯を学ぶとともに、「国連ESDの10年」をはじめ、SDG's（持続可能な開発目標）およびGAP（グローバル・アクション・プログラム）など、ESDの推進プログラムとその背景にある理論的基盤を理解する。国連（ユネスコ）をはじめ、各国政府やNGO等によるESDの取り組みに関する事例を考察し、今後のESDの実践モデルについて考える。			
授業計画			
第1回：ESD（持続可能な開発のための教育）とは			
第2回：国連ESDの10年（DESD: 2005-2014年）			
第3回：持続可能な開発目標（SDG's）			
第4回：環境教育を基盤としたESDの取り組み			
第5回：開発教育を基盤としたESDの取り組み			
第6回：国際理解教育を基盤としたESDの取り組み			
第7回：市民性（シチズンシップ）育成教育を基盤としたESDの取り組み			
第8回：平和教育（ヒロシマ）を基盤としたESDの取り組み			
第9回：ESD実践の評価モデル（ESDの三角形）			
第10回：日本政府およびユネスコ国内委員会のESD推進施策			
第11回：NGO/NPO等の民間団体によるESD推進の取り組み			
第12回：ユネスコスクールによるESD推進の取り組み			
第13回：ESDで大切とされる6つの概念と7つの能力			
第14回：今後のESDの実践に貢献する教材開発			
第15回：今後のESDに貢献する実践教材案の発表			
テキスト	教科書は使用せず、資料を随時配布する。		
参考書・参考資料等	参考書については、随時必要に応じて紹介する。		
学生に対する評価	課題の発表（85%）、討議への参加状況（15%）		